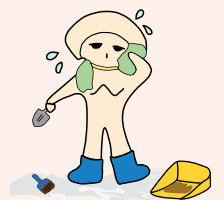


山形県埋蔵文化財センター参観デー
やまがた埋文祭り 2009

平成 21 年度 発掘調査速報会



平成 21 年 10 月 3 日 (土)・4 日 (日)
財団法人山形県埋蔵文化財センター



次 第

平成 21 年 10 月 3 日 (土)・4 日 (日)

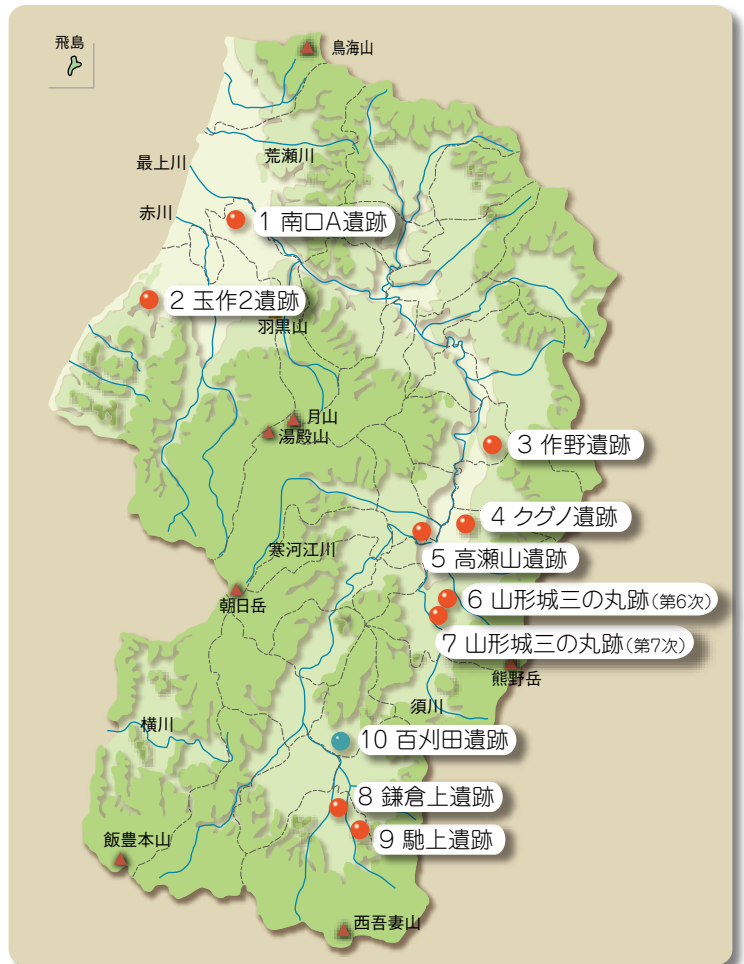
13:30 ~ 15:30

(3 日・4 日とも同じ内容で行います)



報告内容

- 1 平成 21 年度発掘調査の概要
- 2 南口 A 遺跡
- 3 玉作 2 遺跡
- 4 作野遺跡
- 5 クグノ遺跡
- 6 山形城三の丸跡 (第 6 次)
- 7 山形城三の丸跡 (第 7 次)
- 8 鎌倉上遺跡
- 9 馳上遺跡



平成 21 年度 財団法人山形県埋蔵文化財センター発掘調査遺跡一覧

	遺跡名	所在地	時代	種別	調査面積	調査期間	事業名
1	南口 A 遺跡	庄内町余目字南口	奈良・平安	集落跡	6,500㎡	5 月 13 日 ~ 9 月 16 日	余目酒田道路改良事業
2	玉作 2 遺跡	鶴岡市大字中清水 字玉作	古墳・平安	集落跡	3,700㎡	5 月 11 日 ~ 8 月 7 日	日本海沿岸東北自動車道 建設工事
3	作野遺跡	村山市大字楯岡 字笛田	縄文	集落跡	1,400㎡	6 月 9 日 ~ 7 月 29 日	徳内・シーボルトライン 道路改良事業
4	クグノ遺跡	天童市大字小関	奈良・平安 中世	集落跡	1,170㎡	5 月 14 日 ~ 6 月 26 日	主要地方道天童大江線道路 改良工事
5	高瀬山遺跡	寒河江市大字寒河 江字高瀬山	旧石器・縄文 古墳・奈良 平安・中世	集落跡 古墳	1,000㎡	5 月 12 日 ~ 7 月 15 日	最上川ふるさと総合公園 都市公園整備事業
6	山形城三の丸跡 (第 6 次)	山形市旅籠町	奈良・平安 中世・近世	集落跡 城館跡	500㎡	5 月 11 日 ~ 7 月 30 日	一般国道 112 号霞城改良事業
7	山形城三の丸跡 (第 7 次)	山形市春日町	中世・近世	城館跡	220㎡	5 月 14 日 ~ 6 月 25 日	都市内街路ネットワーク整備事 業 3・4・25 号東原村木沢線
8	鎌倉上遺跡	米沢市窪田町小瀬 字鎌倉上	古墳	集落跡	3,500㎡	7 月 21 日 ~ 10 月 16 日	道路ネットワーク整備事業 一般国道 287 号米沢北バイパス
9	馳上遺跡	米沢市大字川井 字元立	古墳・奈良 平安・中世	集落跡	14,500㎡	5 月 12 日 ~ 11 月 6 日	東北中央自動車道 (米沢～米沢北) 改築事業

表紙写真：作野遺跡・縄文土器出土状況

南口A遺跡は、庄内平野の中央に位置し、庄内町余目駅の南西約2kmの水田に立地しています。

南口A遺跡の調査は、現在の県道43号余目加茂線の建設に伴い昭和61年に試掘調査が行われ、翌62年には工事の際に立会調査も実施されました。

その後、余目酒田道路の建設計画により、平成17年に踏査による現地確認を行い、平成20年には重機を使用したトレンチによる試掘調査で溝状遺構や水路跡が確認され、奈良・平安時代の土器と近世の陶器が出土しました。

今回の調査では、南側を中心に水路跡、溝、土坑、^{たてあな}穴建物跡などが確認されました。遺構は、出土した遺物や埋土の様子などから、今から1,200年前の奈良・平安時代と近現代（江戸時代末～昭和）のものと考えられます。

穴建物跡は4m×4mの大きさで上部が削平されて、掘り方のみの検出でした。遺物の出土が無い^{ため}詳細は不明ですが、規模や形状から古代のもの^{しょうど}と思われる。かまどや煙道、焼土が見つからなかったことから倉庫の可能性^{しょうど}があります。土坑には底面に木の板や細木を敷いたものがあり、建物の柱の沈み込み防止に据えら^た楚板とも考えられます。

遺物は、奈良・平安時代の須恵器、土師器と近現代の陶器、磁器、木製品、銅銭などがあります。須恵器は、本格的な窯で焼かれた焼き物です。銅銭には「寛永通宝」があります。



中央に水路が、手前に溝が調査区を横断している様子が見られます。

この結果から、約1,200年前の奈良・平安時代から近現代まで、この地域で人々が生活していたことが確認されました。さらに、溝や水路が多く見付き^り豊富な水を利用していた集落であることがうかがえます。ただし、明確な古代の穴住居や建物が確認できなかったことから、集落の中心は今回の調査区の東側とも考えられます。

（氏家信行）



約1,200年前の須恵器という土器が出土しました。カメ、坏、蓋などの器種があります。

玉作2遺跡は、鶴岡市大字中清水に位置し、古墳時代や平安時代に営まれた集落の一部ではないかと考えられます。残念ながら住居跡などは見つかりませんでした。湿地跡や溝跡、土坑や柱穴などが検出されました。

C区からは、大山川の本流かその支流が氾濫した後にできたと思われる湿地跡があり、そこに残った大量の流木や倒木に引っかかるような形で、古墳時代前期の土師器片が数多く出土しました。炭の混じった土坑から、古墳時代の埴かんや小型丸底壺の破片、それから未製品ではありましたが、凝灰岩製と思われる勾玉ぎようかいがんせいが1個見つかったのも注目されます。柱根ちゆうこんの残った柱穴ちゆうけつも2基検出されています。水路を挟んだ反対側のE区では、C区の続きと考えられる湿地跡と、そこに流れ込み残ったと思われる流木群、またそれらの流木に引っかかったと思



現在建設中の高速道路本線の右側にあるのが調査区、手前がD区、農道を挟んだ上がC区、水路を挟んでその右側がE区です。発掘調査に並行し、国道7号にちょうど橋脚の架かった時期でした。

われる古墳時代前期の土師器片が数点出土しました。

農道を挟んでC区の南側にあるD区からは、平成17年度に行われた1次調査で見つかったものの続きと思われる平安時代の溝跡が検出されました。溝は幅40～80cm、深さは10～15cmと浅く、溝の中から遺物は出てきませんでした。また遺物の伴わない柱根の残った柱穴も3基見つかりましたが、C区から検出したものと合わせて年代測定を行っていく予定です。また、8世紀末から9世紀代にかけての須恵器坏などの破片が数多く出土しました。D区から出土した遺物は、平安時代のものばかりでした。

人々の生活した住居跡や建物跡などは見つかりませんでした。それらは洪水の際に流されて見えなくなったか、もう少し山寄りの高台の方にあったのではないかと考えられます。

(福岡和彦)



C区の中央部には、大山川の本流かその支流が氾濫した後にできたと思われる湿地跡に残った大量の流木に引っかかるような形で、古墳時代前期の土師器片などが数多く出土しました。

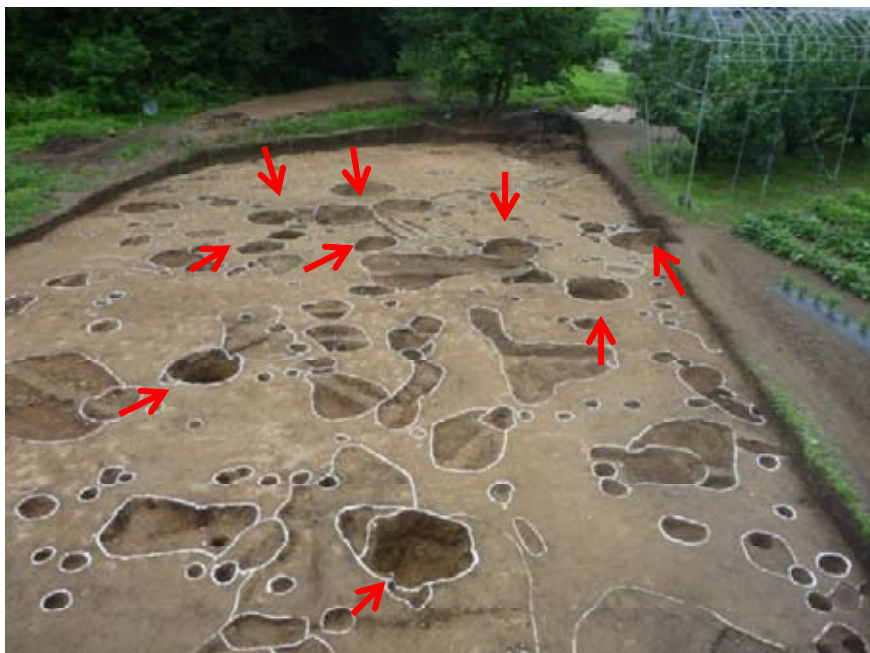
作野遺跡は、村山市楯岡に位置し、県内を代表する縄文時代晩期（約 3,000 年前）の有名な遺跡です。昭和 50 年代に区画整理や宅地造成などの理由から市や県の教育委員会、山形大学などによって何度か発掘され、多くの土器や石器が得られています。

遺跡の範囲は東西・南北共に 100 m 以上に及ぶと考えられており、今回の調査区は遺跡の最も東側の山際^{せんじょうち}に当たっています。

調査の結果、扇状地最頂部の小谷に挟まれた狭い台地上に、十数基の貯蔵穴群^{ちようぞうけつ}や、直径が 5 m ほどの竪穴住居跡などが発見されました。

調査結果から、県内ではあまり知られていない縄文時代晩期の集落構造が少し分かってきました。扇状地扇央部の広い台地上に、小型の竪穴住居群（昭和 54・58 年調査）が作られ、その外側（今回調査地点）の扇頂部に、貯蔵穴群が集中的に掘られています。木の実などを蓄えた貯蔵穴は、直径や深さが約 1 m 前後のものですが、入り口を狭くして温湿度変化の少ない穴蔵に空気があまり入らないようにしたり、たくわえ物が多く入るように底面を広く造るなどの工夫が見られました。このように湿気を防ぐため水はけの良い山際の高台を選んで倉庫群を造っていた村人のくらしぶりが思い浮かびます。

縄文土器や石器などの生活用品の他、土偶^{どぐう}や石棒^{せきぼう}などの祭祀（お祭り）のための道具が出土しました。特に穴蔵の中から出土した完形の注口土器や深鉢などは注目すべきものと考えられます。この中には地元産でない急須



貯蔵穴群の完掘状況。矢印で示すものが大型の貯蔵穴で、全体に底が下膨れ状に広がっています。時期毎にまとまりが見られます。

形の注口土器があり、底の近くには直径約 5 mm ほどの穴が開けられていました。遠隔地との交流・交易がうかがえるとともに、穴蔵が最終的には墓穴に転用されるなどの使われかたをしたのではないかと推測される興味深い事例です。

（植松暁彦）



貯蔵穴から出土した注口土器。関東地方のものと類似し、底部近くに小孔がつけられています。

クグノ遺跡

ー集落の周辺部か？ー

天童市

クグノ遺跡は、JR 天童駅から西に直線距離にして約 1km、主要地方道天童大江線を挟んで天童市スポーツセンターの北側に位置しています。遺跡は、^{おしきりがわ}押切川と^{くらづがわ}倉津川に挟まれた^{みだれがわせんじょうちせんたんぶ}乱川扇状地扇端部にあり、発掘時は畑地として利用されていましたが、以前は水田であったとみえ、ほ場整備も実施されています。遺跡名の「クグノ」は小字名で、由来はまだ分かりませんが、「クグ」とは昔の言葉で「鶺鴒（くぐい）」のことで白鳥の古名だそうです。天童市には白鳥の飛来地がありますので、もしかしたら関係があるのかもしれませんが。

クグノ遺跡の遺構検出面は地表から 20 ～ 30cm 程度と浅く、ほ場整備時に大きく削平を受けたと考えられます。このため、数多くの遺構・遺物が失われたようですが、このたびの調査で、少なからずピット・土坑・溝跡などが検出されました。

ピットは遺跡の中央部で集中して検出され、柱痕を確認できるものもありましたが、残念ながら建物を検出するには至りませんでした。溝跡は東側で多く検出されました。その内部からは、上層部になりますが、^{はじき}土師器・^{すえき}須恵器片を中心とした遺物が出土しました。土師器・須恵器のほかに、遺構外から縄文土器・中近世陶磁器片も出土しています。

河川の氾濫によると考えられる窪地への砂利の堆積状況や遺物の出土状況から、多くは流れ込みと判断されますが、土師器・須恵器が多いことから、遺跡の主な時代は奈良・平安と推測されます。また、遺跡の中心は今回調査した区域の北側にあり、今回の調査区は遺跡の周辺部にあたると考えられます。

(武田伸一)



東から見た調査区全体の様子です。東側で溝跡が、中央部からはピットが、たくさん見つかりました。



調査区を斜めに横切る浅い溝跡です。ここからは土師器・須恵器片が比較的多く出土しました。



遺物包含層から縄文土器がまとまって出土しました。

高瀬山遺跡はJR左沢線寒河江駅の南西約1kmに位置し、東西約1.6kmの広範囲に及ぶ旧石器時代～中世の複合遺跡です。周辺は近年まで果樹園や畑地として利用されていましたが、高速道路建設や公園整備などの開発に伴い、数度にわたる発掘調査が行われてきました。今回は最上川ふるさと総合公園整備事業に係る高瀬山遺跡（HO）3期の第2次調査で、昨年度に引き続き、遺跡の東端にあたる最上川左岸の小丘陵「高瀬山」の西麓が調査区域となりました。公園の給排水管やフェンスなどの埋設工事に沿った幅1mほどのトレンチ（溝）調査のため、住居跡など大型の遺構や遺跡の全容を捉えることは困難でしたが、縄文時代の大規模な集落跡の存在が明らかになってきました。

高瀬山と最上川の間にある中位段丘の平坦面において、多量の縄文土器・石器が出土する遺物包含層が広範囲に確認されました。調査全体の遺物出土量は整理箱で192箱ですが、そのうち126箱を包含層からの出土遺物が占めています。

検出された遺構には、埋設土器と石組がセットになった複式炉を有する竪穴住居跡

2棟をはじめ、付近から埋甕・石蓋を伴う墓坑や袋状に内部が広がる貯蔵穴が複数検出されました。袋状土坑からは縄文土器が数個体まとまって出土したほか、焼土が堆積した下から石棒の一部とみられる石器片と石皿が伴出し、祭祀的な性格を持つような遺構も検出

されました。集落跡は概ね縄文時代中期末（約4000年前）と考えられますが、前期や後期に比定される縄文土器も確認されています。

他に、石鏃・石匙・石篋・打製石斧・磨製石斧・石棒・凹石・敲石・石皿などの石器や土製品の耳飾があります。凹石や石皿といった調理器具が多く出土することからも、山や川に囲まれた良好な立地環境のもと、遺跡が生活の場として営まれてきたであろうことが窺われます。

今回の調査では県指定史跡「高瀬山古墳」に隣接する調査区もありましたが、周溝など関連する遺構・遺物は確認できませんでした。また、最上川に面する段丘上端において、奈良・平安時代の竪穴住居跡を2棟検出しました。昨年度の1次調査において、同時代の竪穴住居跡を検出した段丘斜面のちょうど上部に位置します。住居跡に付属するカマド跡からは、煮炊きに使われる赤焼土器の甕が出土しています。

（今正幸）

山形城は、14世紀後半に^{しばかねより}斯波兼頼が築いたと言われます。文禄・慶長年間(1592～1615)に、^{もがみよしあき}最上義光によって城が改築され、本丸・二の丸・三の丸と三重の堀を構えた城郭・城下町が建設されました。

昨年度に引き続き三の丸北東角の発掘調査を行いました。これまで、江戸時代の絵図面などの資料でも、旅籠町の辺りは堀跡の位置が特定されていませんでした。今回の調査は三の丸を囲む堀跡や土塁の痕跡の確認が大きな目的となっています。

調査では、調査区内を堀跡が横切っていることが予想されるため、堀の遺構が見えるまで少しずつ土を削りました。前半に調査した1区では竪穴住居跡・柱穴・土坑などの遺構が見つかりました。特に西側では、柱穴・土坑などの遺構が多く見つかっています。また、中央付近では、奈良・平安時代の竪穴住居跡が検出され、須恵器の坏などが出土しました。東側には遺構がなく、石を敷きつめて整地したような痕跡が見られ、この部分は、2区で見つかった堀跡との位置関係から土塁があった部分と考え



発掘された堀です。幅9m、深さは5mで、崩れないように石で土留めされています。

られます。敷き詰められた石の間からは、江戸時代の瓦や陶磁器が見つかりました。

2区では、調査区を南北に横切るように、三の丸の堀跡が見つかりました。馬見ヶ崎川の氾濫のためか、外側に当たる東側の堀端は石で護岸されており、数回にわたる補修の跡も認められます。堀の中からは、陶器・磁器・石製品・金属製品・銅銭などが出土し、また、子どもの遊び道具である「泥めんこ」や明かりを灯した「ひょうそく」など、当時の生活をしのばせるものも散見されます。また、堀の東岸の土坑からは漆塗りの椀や瓦などが出土しました。

調査によって出土した遺物や、埋め土の状況、石組の役割などを考察することで、三の丸の堀がどのように造られて機能し、そして埋められていったのか、その時々を経緯や背景が明らかになると期待されます。

(佐竹弘嗣)



堀の東岸で見つかった土坑です。漆塗りの椀や瓦などが出土しました。

山形市春日町で、昨年^{かすがちょう}に引き続き、発掘調査を行いました。

今年度の調査では、古代や近世^{いぶつ}の遺物、日常生活で用いられた近現代の遺物が見つかりました。また、市道の下からは、堀の一部と考えられる痕跡^{こんせき}も見つかりました。

今から約 400 年前に、拡充・整備された山形城の広い三の丸の中で、春日町の調査区は、三の丸の出入口の一つ、飯塚^{いづか}口の近くに位置します。この辺りは、江戸時代後期には田畑になったと言われているところです。

昨年度の調査では、三の丸の西側の堀の一部の箇所^{かしよ}を確認することができ、堀の埋め土からは、瓦・陶磁器・木製品^{かわら どうじき もくせいひん}などが出土しました。

今年度の調査は、昨年度検出された三の丸の堀の西辺の確認が主な目的であったので、確認した堀跡の西側に隣接し、堀跡の一部がかかると推定される、道路の地下部分について調査しました。

道路の下は、過去の水道管などの埋設工事に伴って改変を受けていましたが、



黒色の土から須恵器のカメが出土しました。



古代とみられる土の層を調べています。

約 80cm 掘り下げたところで、土が工事の影響を受けずに残っている部分と、南北方向に並んでいる石の列や、数本の杭^{くい}の列を確認しました。

それらのものが、堀の内と外を区切るなど、堀に関係するかどうかについては、今年度の調査の成果も踏まえて検討します。

また、ほかの調査区で、現在の地表面から約 60cm のところから黒色の土が良好な状態で残っているのが確認され、石匙^{いしさじ}や、古代のものとみられる土師器^{はじき}、須恵器^{すえき}などが出土しました。

ここは、三の丸の土塁^{どるい}の東辺部の可能性もあり、土塁が築かれた際の盛り土によって、古代の土層・遺物が保護されたと考えられます。また、近現代の土塁の取り崩しや土木・建築工事の影響を大きく受けなかったため、現代まで改変されずに保たれたといえます。

三の丸の堀は、近代にその役割を終えて埋められた後も、道路として利用され、地下には水道や下水道、ガス管など社会生活の基盤となるものが埋設されました。

堀の築造から埋め立てまでの経緯をたどることで、山形城の歴史遺産が、現代の都市計画やまちづくりに連綿とつながっていることをうかがうことができそうです。

(庄司隆志)



道路の下から、石の列や杭の列が見つかりました。

馳上遺跡は、米沢市大字川井に位置し、西側を流れる羽黒川によって形成された後背湿地上に営まれた、古墳時代と奈良・平安時代の集落跡で、「米沢遺跡地図」に記載されている周知の遺跡です。平成 12 年度に県道改良工事に伴う大規模な発掘調査が行われて、50 棟を超える住居跡や建物跡と、160 箱に及ぶ遺物が見つかりました。

第 2 次となる今回の調査範囲は遺跡の西域に当たり、県道を挟んだ南北両側を対象としています。見つかった遺構には、住まいや倉庫であったたてあなじゅうきよあと ほったてばしらたてものあと 竪穴住居跡や掘立柱建物跡、廃棄物用の穴と考えられる大小の土坑、区画や排水に使われた溝跡などがあります。また、羽黒川の支流であったと思われる河川跡が複数見つかり、住居跡などの遺構はこれら河川間の比較的安定した場所に築かれています。

竪穴住居跡は 10 数棟確認され、一定の区域に重複したものもある状況から、建替えが行われたことがうかがわれます。大きさは一辺が 3～5 m ほどの方形で、南面にカマドや炉を備えた例が多く見受けられます。



方形の竪穴住居跡を検出しているところです。



調査区東側半分の様子です。写真左奥の山の手前で、現在工事中の東北中央自動車道米沢 I.C へ繋がります。

掘立柱建物跡は、規模の大きな柱穴からなる大型の 1 棟が認められました。東西二間×南北三間の配列で、柱間の距離は 2.7 m を測ります。柱穴は径・深さとも約 1 m の大きさで、太さ 30cm 程の柱根が残っているものもいくつかありました。

土坑は形状や大きさに様々なものがありますが、中には周壁が赤く焼けた状態のものがあり、集落内で鍛冶生産が行われていたことも考えられます。

遺物は奈良・平安時代の土師器・須恵器・こくしよくどき 黒色土器などが、主に河川跡や住居跡から多く出土しています。土器はほとんどが破片ですが、復元して完形になるものもあり、煮炊き用の土師器の甕、貯蔵用の須恵器の甕・壺、食器である須恵器や黒色土器の坏などが認められます。食器である坏の中には、底部が大きく器の高さが低い形のものと、小さめの底部で器の高さが増すものが混在している状況から、およそ 100 年間の時期幅があるものと思われます。

古墳時代の遺物は少ないながら、一部の住居跡や包含層から出土しており、これらは土器の形等から、奈良・平安時代よりも200年程古い、古墳時代中頃のものと推測されます。

第1次調査時には河川跡から農耕具などの木製品や、呪いに使用したと考えられる木簡^{もっかん}なども見つかりました。馳上遺跡の発掘調査は、来年度も第3次として引き続き行われる予定です。今後、3カ年の成果を通じて、地域の歴史の一端が解明できるものと期待されます。(須賀井新人)



住居跡のカマド付近から、土器がまとまって出土した様子です。

西谷地b地区

馳上遺跡の北側に位置します。現在も調査中ですが、これまでに次のような遺構・遺物が見つかりました。

調査区一帯に平安時代前半ころの柱穴が見つっています。これらを組合わせることによって多数の掘立柱建物跡が復元できると考えられます。柱穴は密集しているため、掘立柱建物跡も何度も建て替えられたことが分かります。ほかに溝跡、土坑、川跡などが見つっています。

特に目立つものとして、焼成遺構^{しょうせいこう}が10基ほど見つかりました。幅50～80cm、長さ1～2m程度の浅い掘り込みの底部が赤く焼けています。中には大量の焼土・炭・灰が入っていました。しかし、中からはほかに出土するものはなく、何を作るための遺構だったのかは分からないことから、これからさらに詳しく調査することになります。

出土遺物には、土師器・須恵器などの土器がありますが、数は多くありません。

焼成遺構が多く見ついていることから、何らかの工房と掘立柱建物跡を中心とした集落であったことが分かりました。調査区は今後南側に広げられる予定ですので、さらなる発見が期待されます。(水戸部秀樹)



焼成遺構からは、大量の焼土、炭、灰が見つかりました。

鎌倉上遺跡は、米沢南陽道路の米沢北インターチェンジから、東へ約 350 m の地点に位置します。西に鬼面川、東に最上川の 2 つの河川にはさまれた低地に立地する古墳時代の集落跡です。また、遺跡の北東約 1 km の地点には、全長 80 m に及ぶ前方後方墳である、ほうりょうつか寶領塚古墳があります。

今回の調査では、古墳時代の^{ほったてばしらたてものあと}掘立柱建物跡 1 棟、竪穴住居跡 3 棟、溝跡、河川跡、捨て場が検出されました。他に、近世の溝跡も確認されています。

掘立柱建物跡は、柱間が 2 間×2 間で、規模は 4.4 m×4.8 m、柱穴の掘り方は円形で、直径は約 40cm の規模となっており、倉庫などの役割が考えられます。建物に並行して、北側約 1 m の位置には、長さ約 3 m の溝跡が検出され、土師器がまとまって出土しました。



掘立柱建物跡の付近から出土した、土師器の小型壺になります。赤く彩色されています。



地面に柱穴を掘って柱を建てた、掘立柱建物跡です。2×2 間の方形の建物です。柱は抜き取られたと思われ、残されていませんでした。

た。

竪穴住居跡は 3 棟検出され、当時の一般的な住まいと考えられます。方形で、規模は一辺が 3.4～3.6m になります。住居の中には火をたいた炉が認められます。

調査区南側には、河川跡が検出されました。幅は約 4～7 m、深さ約 1 m で、北東へ流れていたと考えられます。下層からは、杭や板材などの木製品が出土しました。

遺物については、掘立柱建物跡の周囲や竪穴住居跡の中から、古墳時代前期の土師器が出土し、器種は、煮炊き用の^{かめ}甕、貯蔵用の^{つぼ}壺、食物を盛り付けるための高^{たかつき}坏、^{つき}坏、壺などをのせる器台などがあります。小形の壺には、赤く塗られたものが認められ、祭りなどに用いられたものと考えられます。

建物跡の分布から考えると、調査区は、集落跡の南端にあたると考えられます。来年度は、集落の中心と推定される北側の調査区を調査する予定です。
(菅原哲文)

百刈田遺跡は、奥羽本線赤湯駅から南西に約 1 km に位置し、遺跡の東方約 1.2 km には国指定史跡稲荷森古墳があります。

平成 14 ～ 18 年度に行われた発掘調査では、縄文時代中期・弥生時代中期・古墳時代前期～中期・奈良時代・平安時代・戦国時代・江戸時代の遺構や遺物が確認されています。平成 18 年度の調査では、河川跡から、古墳時代前期～中期の土器と一緒に、弦楽器と考えられている筑形木製品が出土しました。大きさは、長さ 56 cm、幅 5 cm、厚さ 2 cm で、おおよそ縦半分に割れているようです。

筑形木製品とは、片側に櫛の歯のような凹凸を持ち、片面にゆるやかな曲線のえぐりが入る形が特徴で、一枚の板からできています。春秋～漢時代にかけての中国古代楽器「筑」に似ていることから筑状または筑形木製品と呼ばれ、弦楽器と推測されています。



筑形木製品が出土した河川跡です。古墳時代の土器・木製品・自然木が、河川に堆積した土の中から出土しました。

弥生・古墳時代における近畿・東海地方を中心に分布し、これまで全国で 20 点の出土が確認されています。北日本への広がりとしては、石川県金沢市西念・南新保遺跡、千葉県木更津市菅生遺跡からの出土例があります。今回の発見は全国 21 例目で、東北地方への広がりを確認できる初めての貴重な資料となります。

筑形木製品は、古墳時代における王権や首長に関わる儀式やおまつりで使用された可能性が考えられ、楽器の演奏を伴う式典が、当地域でも繰り広げられていたことが想定されます。また、それらの儀式やおまつりが、首長と深く関わるであろうことは、百刈田遺跡と稲荷森古墳との近い位置関係からも理解できます。

(高桑弘美)



百刈田遺跡から出土した筑形木製品です。杉材の木目とゆるやかな曲線が美しく、みごとに仕上げられています。

発掘調査点描

今年度行われた発掘調査の様子です。
遺跡は、それぞれ豊かな個性を見せてくれます。みなさんも、間近でご覧になりませんか。



山形城三の丸跡第7次 遺構検出



クグノ遺跡 遺構掘り下げ



鎌倉上遺跡 器材搬入



玉作2遺跡 遺構検出



山形城三の丸跡第6次 堀跡掘り下げ



馳上遺跡 遺構掘り下げ



馳上遺跡 体験学習



高瀬山遺跡 縄文土器



鎌倉上遺跡 土層記録用断面



馳上遺跡 土層記録



クグノ遺跡 遺構掘り下げ



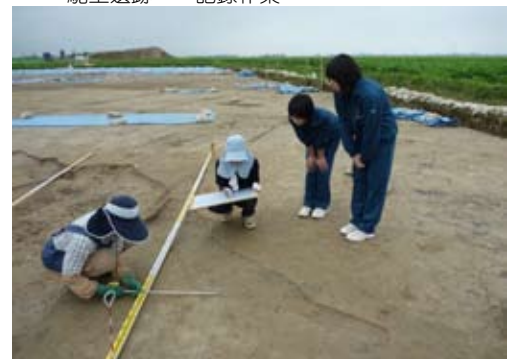
馳上遺跡 記録作業



山形城三の丸跡第7次 遺構検出



馳上遺跡 遺構掘り下げ



南口A遺跡 体験学習



南口A遺跡



クグノ遺跡 断面図作成



馳上遺跡 写真撮影



山形城三の丸跡第6次 遺構検出



馳上遺跡 調査開始



南口A遺跡 センターから器材搬出



高瀬山遺跡 遺構検出



馳上遺跡 タワーからの写真撮影



作野遺跡 遺構掘り下げ



玉作2遺跡 遺構掘り下げ



南口A遺跡 撮影機材



南口A遺跡 皆既日食



山形城三の丸跡第6次 調査説明会



鎌倉上遺跡 遺構掘り下げ



作野遺跡 乾燥した所への水まき



南口A遺跡 遺構検出



玉作2遺跡 遺跡見学



クグノ遺跡 遺構掘り下げ



作野遺跡 調査説明会



高瀬山遺跡 調査区設定



馳上遺跡 発掘体験



玉作2遺跡 遺構検出

山形の遺跡と日本・世界の歴史

年	時代	●:21年度発掘調査遺跡 県内の主な遺跡		山形県の歴史	日本の歴史	世界の歴史
約8万年前	旧石器時代	上屋地 (飯豊町)	富山 (寒河江市)	山形県に人が住みつき、県内で産出する良質な頁岩で作られたナイフを使う	日本列島に人がすみつき石器を使って狩猟などをして生活する	原人 旧人 新人
		越中山 (鶴岡市)	お仲間林 (西川町)			
		小国東山 (小国町)	金谷原 (寒河江市)			
		弓張平B (西川町)	角二山 (大石田町)			
約10,000年前	縄文時代	草創期	日向洞穴 (高島町)	隆起線文土器を使う人が日向洞穴などで生活を始める	弓矢がつかわれた 土器づくりがはじまる	農耕牧畜が起る
		早期	火箱岩洞穴 (高島町)			
約6,000年前		前期	にひやく寺 (山形市)	縄文土器による小集落が形成される	縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる	農耕牧畜が起る
			大野平 (南陽市)			
約5,000年前		中期	●高瀬山 (寒河江市)	漆を使って文様を描いた土器がつけられる	落葉広葉樹林が広がる 磨石・石皿・四石が多くなる	ユーゲ文明始まる
			押出 (高島町)			
		後期	西ノ前 (舟形町)	堅穴住居に複式炉がつくられる	三内丸山遺跡が繁栄する	楔形文字が使われる
			小反 (鮭川村)			
			空沢 (長井市)	集落が減少する	関東地方に大型貝塚があらわれる	ピラミッドが作られる
			小平4 (酒田市)			
約3,000年前		晩期	蕨山 (酒田市)	中国製青銅刀がもたらされる	配石遺構がさかんにつくられる	殷王朝がおこる
			●高瀬山 (寒河江市)			
			川口 (村山市)	鳥海山が噴火する(前446年)	亀ヶ岡文化が栄える 九州で米づくりはじまる	ソクラテスが死ぬ 孔子生誕
			砂子田 (天童市)			
			●高瀬山 (寒河江市)			
			宮の前 (村山市)			
			●作野 (村山市)			
			下叶水 (小国町)			
約2,300年前	弥生時代	北柳1・2 (山形市)	生石2 (酒田市)	米づくりがはじまる	吉野ヶ里遺跡が繁栄する	アレクサンダー大王生誕
		百刈田 (南陽市)	庚壇 (南陽市)	機械がはじまる	邪馬台国が出現する(230年頃)	カエサル暗殺
約1,700年前	古墳時代	畑田 (鶴岡市)	比丘尼平 (米沢市)	鉄製農具がつかわれた 県内最大の前方後円墳がつくられる	前方後円墳がつくられる 大和の土師器が全国にひろまる	ゲルマン民族大移動
		●玉作2 (鶴岡市)	天神森古墳 (川西町)			
		●鎌倉上 (米沢市)	稲荷森古墳 (南陽市)	小規模な古墳群がつくられる	須恵器がつくられた 稲荷山古墳出土の鉄剣(471年)	隋王朝がおこる
		●馳上 (米沢市)	寶領塚古墳 (米沢市)			
		今塚 (山形市)	菅沢古墳 (山形市)	大規模な集落があらわれる	聖徳太子が摂政となる(593年)	マホメット生誕
		馬洗場B (山形市)	大之越古墳 (山形市)			
		板橋2 (天童市)	お花山古墳群 (山形市)		十七条憲法を制定(604年)	
		西沼田 (天童市)	服部・藤治屋敷 (山形市)			
		矢馳A (鶴岡市)	梅ノ木 (山形市)			
		物見台 (中山町)	太夫小屋2・3 (川西町)			
		南廻り屋 (高島町)	百刈田 (南陽市)			
			中里 (米沢市)			
約1,300年前	飛鳥時代	北田古墳 (高島町)	羽山古墳 (高島町)	出羽郡が建郡される(708年)	平城京に都をうつす(710年)	李白・杜甫らが活躍
		安久津古墳群 (高島町)	長手古墳 (米沢市)	出羽郡が設けられる(709年)	東大寺の大仏開眼(752年)	
約1,200年前	奈良時代	二色根古墳 (南陽市)	牛森古墳 (米沢市)	出羽国が建国される(712年)	長岡京に都をうつす(784年)	カール大帝戴冠 楊貴妃が活躍 アラビアンナイト成立
		不動木 (河北町)	木和田窯 (米沢市)	出羽郡が秋田村清水岡に移転する(733年)	平安京に都をうつす(794年)	
		一ノ坪 (山形市)	西町田下 (米沢市)	大地震がおきる(850年)	坂上田村麻呂が蝦夷を平定する(797年)	高麗王朝がおこる 宋王朝がおこる
		●馳上 (米沢市)	泉森窯 (酒田市)	鳥海山が噴火する(871年)	胆沢城をつくる(802年)	
		大浦B (米沢市)	手蔵田 (酒田市)	最上郡が二分され、最上郡と村山郡となる(886年)	将門・純友の乱(935-939年)	十字軍の時代始まる
		城輪棚 (酒田市)	山海窯跡群 (酒田市)		藤原氏の全盛(1016年)	
		俵田 (酒田市)	大坪 (遊佐町)			
		八森 (酒田市)	下長橋 (遊佐町)			
		●玉作2 (鶴岡市)	堀端・地ノ上 (長井市)			
		●南口A (庄内町)	●クグノ (天童市)			
		山田 (鶴岡市)	的場 (天童市)			
		落衣長者屋敷 (寒河江市)	蔵増押切 (天童市)			
		三條 (寒河江市)	永源寺 (天童市)			
		梅ノ木 (山形市)	四ツ塚 (河北町)			
		川前2 (山形市・中山町)	向河原 (山形市)			
		谷柏J (山形市)	服部・藤治屋敷 (山形市)			
		小松原窯 (山形市)	今塚 (山形市)			
		一ノ坪 (山形市)	吉原 (山形市)			
		中地藏 (山形市)	三本木窯 (山形市)			
約800年前	鎌倉時代	升川 (遊佐町)	長表 (山形市)	斯波兼頼が山形へ入部	鎌倉に幕府をひらく(1192年)	マクナカタル制定 チンギスハーン征西 ダンテが活躍
		大楯 (遊佐町)	永源寺 (天童市)		南北朝の動乱(1336年)	明王朝がおこる ルネサンス全盛
約650年前	室町時代	志戸田縄 (山形市)	七日台 (鶴岡市)	最上義光が最上家第11代当主となる(1570年)	室町に幕府をひらく(1338年)	
		執行坂窯 (鶴岡市)	蓮華寺 (鶴岡市)			
約530年前	安土桃山時代	柳沢A (鶴岡市)	高松II (寒河江市)	出羽合戦(長谷堂合戦・1600年)	種子島に鉄砲が伝わる(1543年)	マゼラン世界一周
		藤島城 (鶴岡市)	蔵増押切 (天童市)		織田信長安土城を築く(1576年)	ガリオが活躍
		小田島城 (東根市)	安中坊 (西川町)		豊臣秀吉の天下統一(1590年)	東インド会社設立
		長岡山 (南陽市)	館山北館 (米沢市)		関ヶ原の戦い(1600年)	
		山楯楯 (酒田市)	大宝寺城 (鶴岡市)			
		亀ヶ崎城 (酒田市)	白鳥館 (村山市)			
		清水城 (大蔵村)	米沢城 (米沢市)			
		●山形城三の丸跡 (山形市)	荒川2 (米沢市)			
約400年前	江戸時代	新庄城 (新庄市)	鶴ヶ岡城 (鶴岡市)	最上氏改易(1622年)	徳川家康江戸に幕府をひらく(1603年)	清王朝がおこる
		観音堂 (山形市)	三條 (寒河江市)			アメリカ独立
		及葉町 (山形市)	南台 (長井市)			フランス革命
		渋江 (山形市)	飛泉寺跡 (小国町)			リンカーンが活躍
		坂ノ上 (山形市)	横軸楯 (西川町)			

財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3161 山形県上山市弁天2丁目15番1号
Tel 023-672-5301 Fax 023-672-5586
URL <http://www.yamagatamaibun.or.jp>